



ホオノキ

## 目 次

薬用植物の紹介	薬用植物園長 馬場 きみ江	1
「大学評価」について	学長 矢内原 千鶴子	2
入学定員および学科名称の変更について		3
大学ロゴ・シンボルマークを制定しました	創立百周年記念事業委員長 川島 康生	4
創立百周年記念募金事業にお力添えを	創立百周年記念事業募金委員会	5
大型機器設置	研究委員長／大型共同機器整備計画委員長 天野 富美夫	6
平成15年度公開教育講座	公開教育講座委員長 松村 瑛子	7
平成15年度市民講座を終えて	市民講座委員長 馬場 きみ江	8
前期授業評価アンケート	教務部長 千熊 正彦	9
カリキュラム改定	カリキュラム委員長 石田 寿昌	12
「大薬祭」を楽しむ	学生部長 加藤 義春	13
学生相談室からのメッセージ	学生相談室相談員	14
平成15年度進路・就職状況（中間報告）	就 職 部	15
進学説明会とオープンキャンパス	入試副委員長 掛見 正郎	17
平成14年度学校法人決算	事務局長 肥塚 敏彰	18
総務課だより		19
経理課だより		20
教務課だより		21
学生課だより		22
入試・広報課だより		24
図書課だより		24

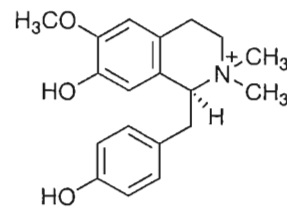
ホオノキ *Magnolia obobata* THUNB. (モクレン科)

ホオノキ (モクレン科) は北海道から九州に至る各地に自生する落葉性の高木で、高さ20m、径1mに達するものもある。庭園樹、公園樹または建築材としても植栽される。和名は「ほほかしはのき」、ほほは「火火」で赤色の意味、若葉が紅色で、成長するにつれてかしわの葉に似ることに由来するが、食物を包む葉の木「包の木」からきたとの説もあり、定説はない。花期は5～6月で、枝先に大型の黄白色の花を付ける。果実は長楕円形で多数の袋果から成り、紅熟する。葉は枝先に集まって互生する倒卵状の長楕円形で、幅が15cm、長さは20～40cmぐらいでやや厚手であり、上面は無毛、下面は白色の軟毛がある。葉が大きく芳香があるので、この葉に味噌を薄くのばして焼き「ほお葉味噌」を作るのに利用される。これは奥飛騨の素朴な味として、飛騨高山に旅行した者には忘れられない。この地方ではおにぎりを包んだりする時にも利用されているという。また、材は軽くてきめ細かく、木工品としてほお園の下駄や工芸品、彫刻などの材料としての用途は広い。立夏から夏至の頃、20～30年経過したホオノキの樹皮を剥ぎ取り、約1mの長さに切り、日干し乾燥したものが生薬の和厚朴(ワコウボク)である。中国産には同属のカラホオ *M. officinalis* およびその変種で葉の頭頂部が2裂している凹葉厚朴(蘆山厚朴) *M. officinalis* var. *biloba* の2種がある。その幹皮、根皮、枝皮を加工したものが唐厚朴(トウコウボク)である。厚朴は外部が紫黒色を呈し、質は厚くて緻密、油性に富み、芳香が強く、微かに苦味のある新鮮なものが良品とされており、唐厚朴に比べて、和厚朴はやや劣るといわれている。厚朴は古来よりしばしば薬用に供されており、中国最古の本草書である神農本草経(しんのうほんぞうきょう)の中品にも収載され、「中風・傷寒の頭痛、寒熱・驚気、血痺・死肌を治し、三虫を去る」と記されている。また、李時珍の本草綱目(ほんぞうこうもく)には、「その木は質朴にして、皮厚く、味辛烈で色が紫赤であることから、厚朴、烈朴、赤朴と呼ばれる」と記されている。朴は木皮のことで、漢名はこの木の皮が厚いことに由来する。漢方における用法は「氣」を下す、すなわちガスが溜まり腹部膨張感

を主徴とする消化器疾患を目標とするものと、不安神経症を含めた精神神経疾患を目標とするものに大別されている。現在、一般用漢方210処方中の18処方に配合され、その代表的な処方としては、半夏厚朴湯、平胃散、小承気湯、柴朴湯、桂枝加厚朴杏仁湯などがある。近年、厚朴単味または厚朴含有の処方ではパーキンソンズを治療したという報告も見られる。

ホオノキの成分は日本産、中国産ともほぼ類似しており、代表的な成分としてはマグノクラリン、マグノフロリン、マイケラルピン、アノニンなど多数のアルカロイドが知られている。マグノクラリンには神経と筋の接合部において神経の伝達を遮断するクラレ様の筋弛緩作用が認められている。しかしその作用はそれほど強くはないという。また、ネオリグナンのマグノロール、ホオノキオールが含まれているが、これらの化合物には鎮静、運動抑制、中枢性筋弛緩、脊髄反射抑制などの持続性の中枢抑制作用、カルシウム流入阻害作用、抗潰瘍作用、グラム陽性菌および真菌病原菌に対する抗菌作用が認められている。さらに、マグノロールには抗潰瘍作用、胃酸分泌抑制作用、EDRF放出作用などもある。このほかには、β-およびγ-オイデスマールを主成分とするセスキテルペノイドやα-およびβ-ピネンなどのモノテルペノイドなどを含んでいる。β-オイデスマールにも弱いながら中枢抑制、睡眠増強、抗ヒスタミン作用が認められている。このように、それぞれの成分が、作用点が異なって類似の薬効を示す場合には、作用が相乗的に働き増強されていると考えられている。個々の成分ではそれほど強くはない作用が、水エキスやエーテルエキスの場合には顕著に表れるのもこのような理由からであると推察される。

(薬用植物園長 馬場きみ江)



マグノクラリン

# 「大学評価」について

学 長 矢内原 千鶴子

戦後の旧制から新制への大学改革に次ぐといわれる大学政策の大転換が矢継ぎ早に打ち出され、国公立いずれを問わず全ての大学が変革を迫られています。大学の 신설・組織改編についても例外ではなく、既に設置基準の緩和・解除など認可行政も大きく緩和の方向に転換し、他の行政システムと同様、国による事前規制型から事後チェック型へと移行、大学の存続も市場原理に委ねられようとしています。大学教育の現場に市場原理を持ち込むことの正否については議論のあるところではありますが、現実には既に進みつつあり、大学の教育・研究・管理・運営・経営など全ての面において大学自ら自主的、自律的に自らの質の保証をしなければならない責任を課せられたということになるでしょう。そして、その結果は社会の評価の対象となり、大学には国の規制に代わって社会の規制が新たに加わることになります。

従来、大学の質の保証については「自己点検・評価」による各大学の自己努力によってなされるものとされてきた学校教育法（平成3年）がこのたび改正され、平成16年4月1日より事後チェックシステムの一つの柱として、「第三者評価制度」が導入されることになりました。すなわち、全ての大学は、国の認定を受けた「認証評価機関」による評価を定期的に受けることが義務づけられることになりました。既に国立大学の評価を行う機関として「大学評価・学位授与機構」が試行期間を終え、本格的な第三者評価の実施に入ろうとしています。ただし、余談ではありますが、外国にも例がないこのような官製の評価機関に対しては少なからず疑問が投げかけられているところでもあります。一方、私立大学の評価作業の大勢は、少なくとも現時点では、従来から多くの実績を残してきた財団法人大学基準協会が担うことになると予想されます。さらに、日本私立大学協会を母体とした新しい財団法人による大学評価機関の設立構想も動き始め、これも認定を受ければ私立大学を中心とした評価機関となるでしょう。しかしながら、現実、第三者評価体制の整備、評価の内容、効率性、コスト、そして何よりも国際基準との整合性、また「評価」をいわゆる評価 (evaluation,

assessment) とするか、米国式に認証 (accreditation) とするか、評価の方法の透明性、公明性の確保など、あまりにも多くの解決されねばならない問題が残されているのも事実であります。

以上のように、大学が自らを厳正に評価し、自らを改善・改革することを目的として課せられた「自己点検・評価」の制度は、ついで、その大学が自ら選んだ関係大学の教員による「外部評価」を受けることを努力義務とする制度を経て、このたび「第三者評価」制度として法律化されました。大学のみならず、医療、企業、人事等々、我が国がかつて経験したこともない“評価の時代”の渦の中に巻き込まれています。いずれ“評価疲労”がやって来るのではとさえ言われています。先駆的な米国の大学評価制度は、100年の時を経て現在の形を整えてきました。日本の伝統的な文化や精神・思想・思考様式に根ざしたところから自然発生したものではないこうした移入制度が、日本人の自らの規範として定着するにはなお多くの時間が必要でありましょう。しかし、一方では、競争時代、グローバル化時代の流れは早く、日本だけが独自の文化的孤高を保っているわけにもいかない時であるのも事実であります。我が国の大学が社会への責任を全うするために「大学評価」はきわめて重要な役割を果たすものと言えましょう。

文部科学省は、薬学教育6年制の施行の最も早い時期の予想として平成18年4月をあげています。こうした薬学教育制度の大変革期にあって、一方では、19年ぶりの私立薬科大学・薬学部の、しかも著しい数の新設が報じられています。医薬分業の大幅な進展による薬剤師需要の急激な増加と、前述の大学設置規制の緩和・解除が相まったの薬系大学版設置パブルとなっています。様々な面での大学間の競争の激化は避けて通ることはできず、薬学教育修業年限延長への対処を合わせ考えれば、私ども薬系大学関係者は、他の専門領域関係者より、きわめて深刻な問題に直面していると言わざるを得ないでしょう。

本学では、平成9年自己点検・評価を実施し公表した実績はありますが、その結果を本学の教育・研究等の改善に役立てるといふ本来の目的は必ずしも

重視されてきたとは言い難いのではないかと反省しています。それ以後既に6年が経過していることもあり、改正学校教育法に則るためにも、この度第三者評価を受ける準備に入りました。この評価の結果の公表は、本学の学部学生・大学院学生・志願者は言うまでもなく、その保護者、卒業生・修了生とさらにはその雇用者までも含め社会の全ての人々の評価の対象となることを自覚し、本学が自らの教育研究や諸活動等の改革、改善を促すものとして真摯に受けとめ、それを実行に移さなければならないと思います。私ども本学関係者にとっては、この第三者評価への対応は避けて通ることのできない喫緊の最重要課題の一つと考えています。

来年には本学の新しい世紀が始まろうとしています。伝統に安住する時代は過ぎましたが、伝統が大きな力であることに違いはありません。今こそ、この伝統の強みを生かす時が来たと思っております。これを推進力に新しい世紀に向かって大阪薬科大学を薬学の教育研究を先導する個性輝く大学にしていかなければならないと考えます。第三者評価のための自己評価は、自己反省であり、これなくして、自らが理想とする大阪薬科大学の実現は覚つがなく、この点において本学関係者の総力が今ほど求められている時はないといえましょう。

## 入学定員および学科名称の変更について

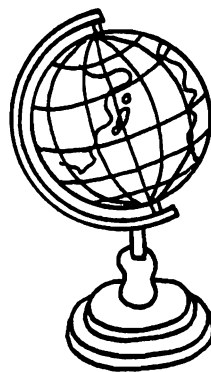
### 1. 入学定員等の変更について

平成16年度から入学定員を300名、編入学定員（2年次編入）を6名、収容定員を1,218名に変更することが、平成15年9月30日付で文部科学省より認可されました。

これを受け、平成16年度各入試の募集人員を推薦入試（S方式）は60名、センター試験利用入試（C方式）は30名、一般入試Ⅰ（F方式）は100名、一般入試Ⅱ（G方式）は100名、編入試（H方式）は6名にそれぞれ変更します。なお、AO入試（A方式）の10名、帰国生徒特別選抜入試（K方式）の若干名は変更ありません。

### 2. 学科名称の変更について

平成16年度から薬学部を「薬学科」（Pharmaceutical Sciences）と「生命薬学科」（Pharmaceutical Life Sciences）の二学科とする予定です。なお、両学科への配属は、4年次進級時に行う予定です。



# 大学ロゴ・シンボルマークを制定しました

創立百周年記念事業委員長 川島 康生

ご存知の如く平成16年(2004年)、本学の創立百周年を迎えるに際して、その記念事業を行うために創立百周年記念事業委員会が設立されました。そして同委員会では行うべき事業の一つとして本学のロゴマークを制定することが決定されました。長年慣れ親しんだ薬大と記した学章があるにもかかわらずこの様な意見がでてきたのは、このマークに対して今日的な感覚から今ひとつと考える方が多かったからでしょうか。

栗原教授を委員長として、ロゴマーク作成委員会が発足しました。委員会ではどのような方法で新しいロゴマークを制定するか検討の結果、デザインの専門家である三木健氏にその作製を依頼されました。学長や理事長は本学の成り立ちや現在、あるいは将来のビジョンなどについてインタビューを受け、それらを念頭に数多くの試案が作製されました。

これらの案がロゴマーク作成委員会において検討され、そのうちの4つの案が候補として選出されました。そしてこれら4案が去る7月31日の百周年記念事業委員会において発表されました。委員会でも色々と検討し、最終的には投票を行ったところ、4つの案の中で下記のような薬学の「薬」の字を抽象化した案が過半数を獲得して最終候補に選ばれました。

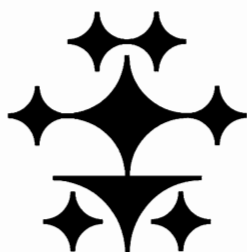
しかしながら、本学にはロゴマークの制定に関して特別の規定があるわけではありません。そしてこのマークは少なくとも向こう何十年かの間、本学の教職員、及び学生の皆さんから愛され、親しまれ、使用されるロゴマークでなければなりません。そこで一部のロゴマーク作成委員や百周年記念事業委員だけではなく、広く全学的にこれを見て頂いて決定するのがよからうという考えから、去る9月17日に本学のロゴ・シンボルマークの制定に関する説明会が全教職員に学生の代表を加えて開催されました。

この会では百周年記念事業委員会では選ばれたロゴマークとともに、他の選ばれなかったロゴマークも提示され、今一度出席者全員に検討して頂いた上で投票して頂きました。その結果、百周年記念事業委員会が選んだマークが過半数の賛同を得たため、この案を本学のロゴマークとして制定することに決定しました。

なお、本学には現在、学章についての規定は存在しません。従って、今後このマークをどのような形で活用していくかについては、広報委員会において検討して頂く予定です。

## 豊かな専門性をクローズアップし、 “意味とカタチ”をデザインしたシンボルマーク

漢字の“薬”をモチーフにしたこのシンボルマークは、大阪薬科大学の深く豊かな専門性と、薬学を通して人と社会に貢献する強い意志と誇りを象徴しています。また、限られた幾何学的なエレメントで構成されたこの造形は、見る人に強い印象を与え、“意味とカタチ”を合わせ持つ漢字の“薬”であることが理解された時、大阪薬科大学の新しいシンボルとして社会に広く浸透すると考えます。



大阪薬科大学  
Osaka University of Pharmaceutical Sciences

薬 — 

“意味とカタチ”を合わせ持つ漢字によるシンボル

— 三木健氏コンセプト —

# 創立百周年記念募金事業にお力添えを

創立百周年記念事業募金委員会

募金目標額1億5千万円を掲げて平成15年4月から始まり、創立百周年記念募金事業の平成15年10月31日までの入金状況は、6,655.2万円で、その達成率は約44%です。これまでに募金事業にご協力賜りました皆様に感謝申し上げますとともに、本学にゆかりのある皆様には引き続き、創立百周年記念募金事業にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

募金目標額 1億5千万円

1. 教育奨学基金の創設 1億円
2. 国際交流基金の創設 4千万円
3. 資料室の整備・充実 1千万円

募金期間 平成15年4月1日～平成17年3月31日

(平成15年10月31日入金分まで)

募金区分	目標額	入金額	達成率	
法人	5,000万円	3,781万円	76%	
個人	10,000万円	2,874.2万円	29%	
(個人の内訳)	同窓会	7,000万円	1,982.2万円	28%
	育友会	1,500万円	545万円	36%
	理事・監事・評議員 教職員・旧教職員	1,500万円	347万円	23%
合計	15,000万円	6,655.2万円	44%	



# 大型機器設置

研究委員長／大型共同機器整備計画委員長 天野 富美夫

平成15年度の大型共同機器整備計画では、以下の2件の機器を申請することになりました。

	機器の名称	主な用途	管理責任者(予定)
1	定量的ディファレンス解析システム	プロテオーム解析	辻 坊 裕
2	FT/IR-660 赤外分光光度計	赤外分光分析	馬場きみ江

これは、例年の大型共同機器整備計画による本学の教育研究機器の重点的な整備・拡充に加え、昨年度より開始された文部科学省の私学助成研究事業「ハイテクリサーチセンター整備事業」で推進する研究課題「DNA・RNA結合分子を標的とした疾病の発症機構の解明とその診断・予防および治療薬の開発への応用」をより円滑に発展させるため、その関連機器を整備する意味も含まれております。そこで、平成14年度に大型共同研究機器整備計画の一環として導入された「蛋白質解析トータルシステム」を構成するMALDI TOF-MSおよびVoyager Biospectrometryに加えて、「定量的ディファレンス解析システム」を導入することになりました。このシステムは、プロテオーム研究において行われるタンパク質の発現量の変化の解析によって、疾患および病原因子などの生命現象に深く関与するタンパク質の同定に必要な基礎データを収集するためのものです。このシステムを構成する装置は、(1) 蛍光標識二次元ディファレンスゲル電気泳動装置、(2) 定量的タンパク質発現ディファレンス解析装置、および(3) 標的タンパク質のスポットピッカー、から成ります。

実際には、標的とするタンパク質をハイスループットで解析するために、(1) を用いて異なる蛍光色素で標識された複数のタンパク質サンプルを二次元電気泳動で分離し、それらの発現の差異を(2) を用いて高感度にハイスループットで検出します。次に、(3) を用いて、迅速に目的タンパク質を自動的に抽出し、MALDI-TOF/MSによる質量分析の前処理であるプロテアーゼ消化が行える状態にします。さらに、こうして分離して処理したこれらのタンパク質を、上述の「蛋白質解析トータルシステム」にかけて精密な解析を行うというものです。

これらが一体化して稼働しますと、細胞あるいは組織内で異なる条件において発現されるタンパク質の網羅的な解析を、自動的かつ高感度に行うことが可能になります。その結果、本学におけるプロテオーム解析が本格的に始動し、微量タンパク質およびペプチドの質量分析を高感度に行うだけでなく、

その由来を同定することができるようになります。それらを通じて、「ハイテクリサーチセンター整備事業」が目的とする、DNA結合分子の構造・機能の解析、ならびに疾病の発症機構の解明が進むものと期待されます。

また、もう一つの申請機器であるFT-IRフーリエ変換赤外分光光度計は、S/N比、分解が良く、干渉計が完全密閉であること、将来的に真空対応が可能なこと等において優れており、本学の老朽化した赤外分光光度計の機能を補うとともに、様々な新規の低分子物質の解析等に威力を発揮することが期待されています。

今日、ヒトを始めとする生物が保持する全遺伝子の構造が、ゲノムプロジェクトの進展により次々と明らかにされていますが、遺伝子の翻訳産物のうち、その機能が明らかにされたり示唆されたりしているものは50%程度に過ぎないと言われています。ゲノム解析の結果を踏まえて、多数のタンパク質を網羅的に分析し、機能が未知であるタンパク質の生理的な役割や機能ネットワークを解明しようとするプロテオーム研究が、ポストゲノム研究として注目され、実際に急速に進められています。本学では、「ハイテクリサーチセンター整備事業」の研究にとどまらず、広く各生物における生命現象の機構の解明や新規薬物の創製の研究が展開されています。そこでは、細胞工学、遺伝子工学、X線回折、コンピュータグラフィックスなどの分子生物学的手法を用いて、生理活性タンパク質、酵素タンパク質などの微量生体物質の構造と機能およびその関連遺伝子の発現制御機構に関する研究が活発に行われています。従って、平成15年度の申請機器はいずれも、共同研究センターで稼働中のMALDI-TOF-MS、X線回折装置、NMR、ピアコアなどと併用されることによって、機能が未知のタンパク質の解析や新規な薬物の設計など、多方面の研究において活躍することが期待されます。皆様の積極的な利用と多くの研究の発展を祈ります。

# 平成15年度公開教育講座

公開教育講座委員長 松村 瑛子

平成15年度公開教育講座は、初めての試みとして会場を学外へ移し、梅田スカイビルにおいて、「高齢化社会における医療と薬学・薬剤師」をメインテーマに、第34回〔6月21日（土）〕と第35回〔9月27日（土）〕を開催しましたところ、両日とも多数の参加者がありました。

第34回参加者からのアンケート（回答率54.3%）によると、「交通の便が良くなって嬉しい」という声が多く寄せられ、また、本学の公開教育講座に今回初めて参加した方は37名にものぼりました。

## 第34回大阪薬科大学公開教育講座

日時：平成15年6月21日（土）

場所：梅田スカイビルタワーウエスト22階会議室E

主題：「高齢化社会における医療と薬学・薬剤師（1）」

演題/講師：「高齢者と病気」

堺市立八田荘老人ホーム健康管理医師

神木 照雄氏

「高齢者への薬物療法」

大阪市立大学医学部附属病院薬剤部副部長

小川 雅史氏



第34回公開教育講座（神木先生）

## 第35回大阪薬科大学公開教育講座

日時：平成15年9月27日（土）

場所：梅田スカイビルタワーウエスト22階会議室E

主題：「高齢化社会における医療と薬学・薬剤師（2）」

演題/講師：「高齢者の介護と介護保険」

大阪府健康福祉部高齢介護室参事

福島 俊也氏

演題/講師：「高齢者医療における薬剤師の仕事～薬剤師不要論との戦い～」

薬局セブンファーマシー薬局長

七海 陽子氏



第34回公開教育講座（小川先生）



第35回公開教育講座（福島先生）

なお、第36回は下記のとおり実施の予定です。

## 第36回大阪薬科大学公開教育講座

日時：平成16年2月28日（土）

場所：梅田スカイビルタワーウエスト22階会議室E

受講料：本学卒業生 2,000円／その他 3,000円

主題：「高齢化社会における医療と薬学・薬剤師（3）」

演題/講師：「グローバルな観点からみた開発から市販後までのくすりの安全性」

日本イーライリリー（株）医薬情報部長・

市販後調査管理責任者 多良 寛雅氏

「高齢者の立場から一医療制度、社会保障制度、環境およびその問題点一」

前高槻市長 江村 利雄氏



第35回公開教育講座（七海先生）

	第34回	第35回
参加者数 (内、卒業生)	147名 (74名)	76名 (41名)



# 平成15年度市民講座を終えて

市民講座委員長 馬 場 きみ江

平成15年度市民講座は第15回として5月31日(土)、秋には第16回を10月25日(土)に開催しました。第15回市民講座の開催日は、例年にない早期の台風が近畿地方に上陸し、前日まで開催の可否について関係者で心配をしていましたが、当日の朝は、天候も良くなり、多数の参加者のもと、無事開催することができました。

また、第16回市民講座は秋晴れの良い天気恵まれ、紅葉シーズンということもあり、リュックサックを背負った参加者なども見受けられました。

第15回市民講座の1講目は岡山県のすばるクリニック院長伊丹仁朗氏に「生きがいを見つけ病に打ち克つ」をテーマに、新聞・テレビ等でお馴染みのユーモア療法について実践を交えて分かりやすく講義して頂きました。講演を聴いて、「生きがいを生み出して実行することの大切さを認識した」、「笑うことがいかに大切かが分かった」、「これからは笑うことを心がけて毎日をすごしたい」など多くの喜びの感想が寄せられました。2講目の関西医科大学眼科学教授の松村美代氏には「老化と眼」について、眼の構造などを分かりやすく講義して頂きました。加齢による眼の変化、それに関係する病気の話から、加齢と病気の境目は気持ちの持ちようなので、加齢とうまく付き合って、心豊かに暮らしましょうというお話は1講目の伊丹氏の講演とも関連し、両講演の終了後、参加者の顔は晴れ晴れとしていて、「ありがとう！」と元気なお声をたくさん頂きました。

第16回市民講座は、泌尿器科医をされている大阪市立大学名誉教授の岸本武利氏による「中高年の排尿障害～前立腺疾患と女性に多い尿失禁～」と、近畿大学薬学部薬用資源学研究室教授・近畿大学東洋医学研究所所長・大阪薬科大学非常勤講師の久保徳氏による「葛根湯の話」です。加齢とともに増加する男性の疾患の中でもとりわけ多いといわれている前立腺疾患、日常生活において支障を来している女性も意外と多い尿失禁について、専門医の立場から諸症状、予防法、治療法などについて分かりやすく解説して頂きました。また、2講目は有名な漢方処方の一つの葛根湯について、その構成生薬、効能、使用法などについて、具体例を挙げながら解説して頂きました。

本年度も春・秋の2回開催しましたが、両日あわせて760名もの参加者があり、成功裏に終えることができました。これもひとえに関係各位の皆様のお力添えの賜であると感謝しております。

最後になりましたが、本講座の開講にあたりご開催頂きました高槻市、(社)日本薬学会近畿支部、(社)大阪府薬剤師会、(社)大阪府病院薬剤師会、高槻市薬剤師会、大阪薬科大学同窓会、並びにご後援頂きました大阪府、高槻市教育委員会に厚く御礼申し上げます。また、貴重な資料などをご提供頂きました協賛企業、「くすりの相談室」の相談員としてご協力頂きました薬剤師の皆様へ深く感謝申し上げます。



第15回市民講座(松村先生)



第16回市民講座(久保先生)



第15回市民講座(受講風景)



くすりの相談室

# 前期授業評価アンケート

教務部長 千熊正彦

## ●平成15年度前期授業・実習評価アンケートについて

平成13年度から始められた「学生による授業評価アンケート」は3年目に入り、評価を行う作業そのものは定着してきた感があります。今回は、アンケート用紙を以前より早い時期に各教員に配付し、前期の授業が終了する前にアンケートを回収することによって、アンケートの結果を当該クラスの学生にフィードバックできるようにいたしました。

今回の結果は、前年同期（学報46号）とほぼ同じ傾向であり、ほぼ全ての項目について3.5以上でした。現時点で本学の授業評価の結果は安定しており、信頼性は高いものと推定されます。

本学はいわゆるマスプロ大学の対極にある大学ですが、外国語、基礎ゼミ、洋書講読ゼミなどを除くと必修科目の受講生の数は100名を越えており、担当教員と学生との触れ合いを密にすることは容易ではありません。授業評価アンケートは、教員と学生との触れ合いを深める一つの方法であります。アンケート用紙の自由記載欄に記入された学生の意見や注文に対する回答を含めた教員側からのメッセージは教務課にファイルされ、公開されています。今回も多く教員からメッセージを頂戴しました。学生からの率直な意見に対し、多くの教員が真摯に対応して下さっていることがメッセージから伝わってきます。ご協力に感謝いたします。

また、アンケートの設問や内容については、3年を経た後に、教務部委員会において議論して必要があれば修正を提案したいと思っています。例えば、「板書が適切だったか」という設問2について、「OHPやコンピュータによる映像法が広がりつつあるため、『板書』の解釈を広げるべきではないか」というご意見が寄せられています。本学の授業・実習評価アンケートをより良いものとするために多くの皆さまのご意見を期待しております。

## ●本学のシラバスについて

本学の「授業の内容」（シラバス）が現在の体裁で発行されるようになったのは平成6年度からですが、シラバスの適切性に関する点検・評価は、「授業はシラバスに沿って進められましたか」という設問4が設定されている本授業評価アンケートだけあります。平成13年度からの結果をみると、最高を5.0ポイントとして、評価は3.76ポイントから3.94ポイントの間でほぼ一定しており、本学のシラバスは実際の授業内容を適切に反映してきているものと感じます。今後とも、より優れたシラバスが作成され、学生の勉学に活かされるよう願っています。

	延べ履修人数	延べ回答人数	回答率
全学年	13,132名	9,098名	69.3%
1年次生	4,462名	3,927名	88.0%
2年次生	4,185名	2,697名	64.4%
3年次生	3,777名	2,231名	59.1%

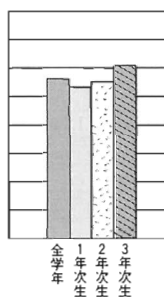


# 2003年度前期授業評価アンケート集計

## 設 問

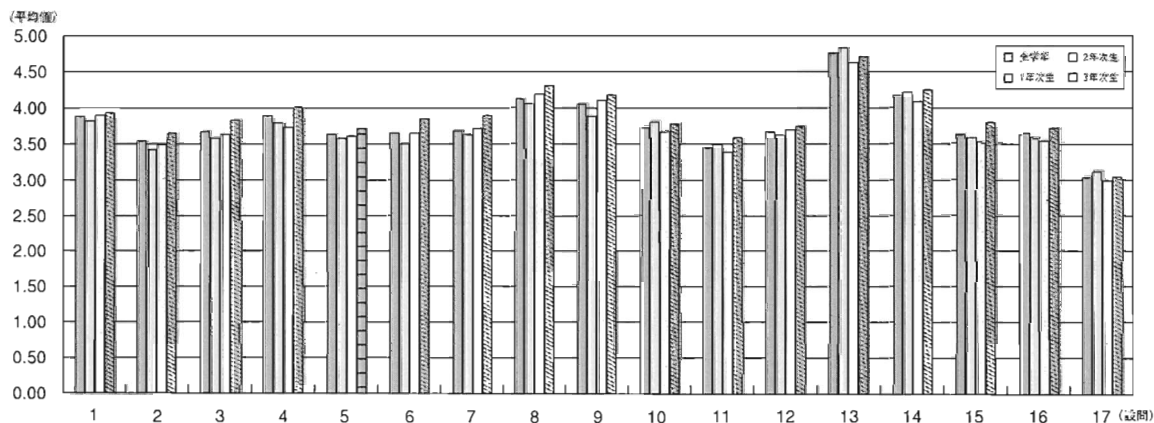
1. 口調が明瞭で聞き取りやすかったですか
2. 板書が適切で授業の理解に役立ちましたか
3. ポイントをよく押さえ、うまく要約されましたか
4. 授業は、「授業の内容」(シラバス)に沿って進められましたか
5. 授業は、説明が十分で理解しやすかったですか
6. 授業に対する関心を高める努力がなされていましたか
7. 私語や態度の悪い学生に対し注意するなど、静かに授業が行われるように工夫されましたか
8. 授業は、時間通り始まり時間通り終わりましたか
9. テキストやその他の教材を使用していた場合、それは適切に行われていましたか
10. 休講があった場合、その補いは十分にされていましたか
11. 授業内容のレベルはあなたにとって適切と思われませんか
12. この授業を総合的に評価してください。次の評価基準で回答してください  
(5-非常に良い、4-良い、3-普通、2-あまり良くない、1-良くない)
13. あなたは、この授業によく出席しましたか
14. あなたは、私語などせず授業に集中しましたか
15. この授業を受けてその分野に対する関心が高まりましたか
16. この授業は、あなたにとって有意義なものでしたか
17. あなた自身、授業を理解するよう努力(予習・復習等)していましたか

回答は、5-そう思う(5ポイント)、4-どちらかといえばそう思う(4ポイント)、3-どちらともいえない(3ポイント)、2-あまりそうは思わない(2ポイント)、1-そうは思わない(1ポイント)から選択。但し、設問2, 9, 10については、0-該当しない(0ポイント)を設けている。また、各設問において回答がない場合は、集計から除外している。



### 【表の見方】

設問ごとに平均値を左から順に、全学年、1年次生、2年次生、3年次生とグラフにしています。



## 全学年

設 問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.86	32.8%	35.2%	19.9%	9.2%	3.0%	-	0.1%
2	3.51	19.9%	30.3%	26.7%	12.6%	4.6%	5.6%	0.2%
3	3.66	23.8%	35.2%	27.0%	10.4%	3.5%	-	0.2%
4	3.86	26.7%	34.8%	34.7%	1.7%	0.7%	-	1.3%
5	3.62	23.9%	34.6%	25.3%	11.4%	4.6%	-	0.1%
6	3.64	24.3%	32.7%	29.5%	9.4%	3.9%	-	0.2%
7	3.69	24.5%	32.1%	33.1%	7.3%	2.7%	-	0.3%
8	4.13	41.1%	37.2%	16.9%	3.1%	1.6%	-	0.2%
9	4.03	32.1%	32.5%	18.1%	3.8%	1.4%	11.6%	0.4%
10	3.74	7.6%	4.8%	8.3%	0.8%	1.2%	76.0%	1.3%
11	3.48	15.8%	34.6%	34.9%	10.5%	4.0%	-	0.2%
12	3.65	20.9%	38.1%	28.3%	9.0%	3.2%	-	0.5%
13	4.70	77.9%	15.1%	5.3%	1.0%	0.2%	-	0.4%
14	4.17	43.0%	35.7%	16.6%	3.3%	0.9%	-	0.4%
15	3.62	23.4%	32.4%	30.8%	9.1%	4.0%	-	0.4%
16	3.61	23.3%	32.0%	30.4%	9.6%	4.3%	-	0.4%
17	3.05	10.4%	22.9%	38.5%	16.8%	10.9%	-	0.5%

## 1年次生

設 問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.78	34.8%	28.6%	20.6%	11.2%	4.8%	-	0.1%
2	3.47	21.4%	24.2%	24.6%	13.1%	6.0%	10.6%	0.1%
3	3.57	24.5%	29.3%	29.4%	11.5%	5.1%	-	0.2%
4	3.83	27.8%	31.4%	36.8%	2.2%	1.1%	-	0.7%
5	3.56	25.6%	30.0%	25.6%	12.2%	6.4%	-	0.1%
6	3.53	23.4%	27.9%	32.2%	10.5%	5.8%	-	0.1%
7	3.58	23.4%	27.7%	36.3%	8.6%	3.9%	-	0.2%
8	4.01	38.3%	34.2%	20.0%	4.9%	2.5%	-	0.2%
9	3.90	26.8%	28.1%	19.6%	4.6%	1.9%	18.7%	0.3%
10	3.77	6.5%	2.5%	6.9%	0.5%	0.8%	81.9%	0.8%
11	3.49	18.9%	31.9%	33.0%	11.3%	4.9%	-	0.1%
12	4.59	21.1%	35.0%	29.4%	9.6%	4.4%	-	0.4%
13	4.78	84.3%	10.3%	4.2%	1.0%	0.1%	-	0.1%
14	4.19	45.4%	33.8%	16.1%	3.4%	1.3%	-	0.1%
15	3.57	23.4%	29.6%	32.4%	9.4%	5.1%	-	0.0%
16	3.56	24.1%	29.6%	30.4%	10.2%	5.6%	-	0.1%
17	3.08	12.5%	23.1%	36.0%	16.2%	12.1%	-	0.1%

## 2年次生

設 問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.88	29.2%	39.9%	21.4%	8.1%	1.2%	-	0.1%
2	3.49	17.3%	34.8%	29.6%	12.5%	4.5%	1.1%	0.2%
3	3.63	20.6%	38.1%	27.3%	11.3%	2.4%	-	0.3%
4	3.77	20.5%	37.4%	38.3%	1.7%	0.4%	-	1.7%
5	3.59	21.5%	35.8%	26.3%	12.0%	4.2%	-	0.3%
6	3.65	22.8%	34.2%	29.8%	10.2%	2.6%	-	0.4%
7	3.66	20.9%	35.1%	34.5%	7.2%	2.1%	-	0.1%
8	4.13	37.9%	41.3%	17.7%	2.2%	0.9%	-	0.1%
9	4.06	32.0%	35.9%	17.4%	3.2%	1.1%	9.8%	0.6%
10	3.70	4.1%	4.9%	7.1%	0.3%	0.4%	81.7%	1.4%
11	3.36	12.0%	32.9%	38.2%	12.4%	4.3%	-	0.3%
12	3.64	19.4%	39.6%	28.0%	9.7%	2.7%	-	0.6%
13	4.63	72.7%	18.6%	6.7%	1.3%	0.2%	-	0.5%
14	4.07	36.4%	39.0%	19.5%	3.8%	0.8%	-	0.5%
15	3.53	19.9%	31.9%	32.8%	10.7%	4.2%	-	0.5%
16	3.53	19.8%	32.0%	32.9%	10.5%	4.3%	-	0.5%
17	3.02	7.9%	21.8%	42.7%	18.4%	8.7%	-	0.5%

## 3年次生

設 問	平均値 (無回答 含まず)	5 そう思う	4 どちらかとい えばそう思う	3 どちらとも いえない	2 あまりそう は思わない	1 そうは 思わない	0 該当 しない	無回答
1	3.93	32.7%	39.5%	17.7%	7.8%	2.2%	-	0.0%
2	3.59	20.6%	35.3%	26.8%	12.6%	2.9%	1.7%	0.1%
3	3.80	25.9%	40.6%	22.8%	8.2%	2.3%	-	0.2%
4	3.99	30.9%	37.4%	28.4%	1.1%	0.4%	-	1.7%
5	3.70	23.0%	39.4%	24.4%	10.5%	2.6%	-	0.1%
6	3.80	26.6%	38.5%	25.1%	7.1%	2.6%	-	0.0%
7	3.90	30.7%	36.4%	25.9%	4.8%	1.7%	-	0.5%
8	4.31	48.4%	37.9%	11.2%	1.4%	1.0%	-	0.1%
9	4.16	41.2%	35.4%	16.6%	3.3%	0.9%	2.3%	0.3%
10	3.75	14.3%	8.7%	11.8%	1.9%	2.8%	59.0%	1.6%
11	3.56	14.2%	39.9%	35.3%	8.0%	2.4%	-	0.2%
12	3.72	21.6%	40.6%	27.2%	7.8%	2.1%	-	0.7%
13	4.68	74.7%	18.0%	5.4%	0.4%	0.4%	-	1.0%
14	4.27	47.4%	34.9%	13.7%	2.5%	0.6%	-	0.9%
15	3.80	26.7%	36.8%	26.4%	7.2%	2.0%	-	0.9%
16	3.74	25.2%	35.4%	28.1%	7.9%	2.4%	-	0.9%
17	3.04	10.0%	23.8%	37.3%	16.5%	11.5%	-	1.0%

# カリキュラム改定

カリキュラム委員長 石田 寿 昌

医療分野における薬剤師の専門職としての重要性とその社会的責任の重大性に鑑み、その唯一の受験資格が認められた薬学部に対しては真の薬剤師教育が求められると共に、薬剤師国家試験の医療と臨床に関する出題内容への大幅な変更が行われた結果、それに対応すべく現行カリキュラムは1998年に策定された。

即ち、現行カリキュラムは実社会の要請に応えるに相応しい「薬剤師教育」を基本的骨子とし、真の薬剤師教育には従来からの薬学の基礎科目とその応用科目のバランスのとれた修得が必要不可欠であるとの考えから、そのために必要と考えられる基礎および応用科目が設定された。さらに旧カリキュラムに対して指摘された検討項目も考慮して、1) 履修科目が多く、学生にとって負担が大きいことに配慮して出来るだけ必修科目を少なくし、2) 薬学科と製薬学科の専門性を明確にするため、両学科のアドバンス科目を多く用意し、学生による選択科目とした。

本年は現行カリキュラム策定後5年が経過し、4年間の学部教育を一巡し、不備な点も明らかになってきた。例えば、1) 薬学科と製薬学科の専門性を高めるために用意したアドバンス科目に対し、当初期待したものは異なり、学生は各学科に相応しい科目を必ずしも適正に選択せずに、単位取得しやすい科目を選択すること、2) 学生の学科選択希望に著しい偏りが生じること、3) 必修科目を少なくしたことによる基礎科目に対する受講機会の減少と薬学基礎能力の低下が見受けられるようになったこと等である。そしてそのことはここ数年の薬剤師国家試験において、本学生の基礎薬学科目の得点平均が全国平均点よりやや下回っていることに関係しているのかもしれない。

一方、昨年には、全国的に薬学教育・薬剤師教育レベルの統一化を図る目的で、(社)日本薬学会による「薬学教育モデル・コアカリキュラム」、「薬学教育実務実習・卒業実習カリキュラム」が作成された。このような背景のもと、新カリキュラムを新たに策定することとなった。

新カリキュラム策定に際しては、現行カリキュラム策定の中心骨子である実社会の要請に応えるに相応しい「薬剤師教育」をより中心軸に据え、薬学の基礎科目とその応用科目のバランスのとれた修得が

必要不可欠であるとの考えから、4年間の学部教育の内、1年次は総合科学系科目、2年から3年前期は基礎薬学科目、3年後期から4年は応用薬学・医療薬学系科目を中心に配当することとした。実習に関してはその講義の進行状況を見ながら適切な実施時期を決めると共に、いずれの系の実習においても必要な基本操作・技術は1年前期・後期に新たに設けた基礎薬学実習1(物理分析生物系)と基礎薬学実習2(有機化学系)を行うことにより修得できるよう配慮した。また、これまで採用してきた薬学科と製薬学科は、このカリキュラム内容の趣旨と目的をより明確に学生に伝えるべく、薬学科と生命薬学科に名称変更した。いずれにしても、1) 学生にとって過大な負担にならないように配慮するものの、薬学科、生命薬学科を問わず、薬剤師教育に必要な不可欠な科目は必修科目とすること、2) 講義シラバスは(社)日本薬学会作成の「薬学教育モデル・コアカリキュラム」の内容を十分考慮して作成することが新カリキュラム策定の基本的な考えである。

学問分野における現行カリキュラムと新カリキュラムとの履修単位比較表を以下に示す。

学 問 分 野	現行カリキュラム	新カリキュラム
教養教育等	30.5	25
薬学基礎教育	7.5	20.5
薬学専門教育	77.5	80
専門—基礎薬学	(31)	(32)
専門—衛生薬学	(7)	(8.5)
専門—創薬科学	(4.5)	(5)
専門—医療薬学	(32)	(31.5)
専門—薬事関連法・制度	(3)	(3)
実務実習	3	3
卒業実習	6	5
単位数計	124.5	133.5

# 「大薬祭」を楽しむ

学生部長 加藤 義春

本年度の「第38回大薬祭」は、10月31日（金）から11月2日（日）までの三日間、好天にも恵まれて順調かつ盛大に執り行われ、トラブルや事故もなく無事終了した。

総合テーマ「足跡」に因んだ本学99年の「歴史展示会」や「クイズラリー」に加えて、恒例の各種イベント・催し物、各クラブの発表・展示会、模擬店の開催など、それぞれに趣向を凝らしてグレードアップし、近隣の市民の参加も多く、大いに賑わった。

バレーボール大会で始まった1日目のハイライトは「Daiyaku Collection」— 浴衣のファッションショーとの説明に、いささか気を揉んでいた私も、着物・和洋折衷の衣装・メイクアップの工夫など女子学生のいじらしいまでの装いに、安堵しつつ微笑した。

2日目、「Dance Battle in Daiyaku」の激しい躍動美は中年の私には眩しかったし、最大の呼び物「嘉門達夫トークショー」も、地元出身有名タレントの語って歌って笑わしての独演ショーは、観客の拍手喝采に、私も学生の意識はかくあるものかと再認識した。

3日目、「園児の発表会」も可愛かったし、「Miss美少年コンテスト」は滑稽な風体と苦心の跡が見え、フィナーレの恒例の「薔薇祭」は噂にたがわず、出演グループのアイデアと猛練習(?)の成果が遺憾なく発揮されて、審査員に指名された私もそのエネルギーに圧倒されて、観客・応援団ともども大いに楽しんだ。

三日間を通じての発表・展示会もそれぞれに日頃の成果が見られ、模擬店での各種販売・出し物も大

盛況、売上げもさぞ多かったろう(?)と思う。私も、何枚も買わされた(?)チケットでたらふく食べ、胃の具合を少々おかしくしてしまった(?)。

そして、何よりも素晴らしかったのは、近隣地元住民の方々の参加が多く、保護者付き添いでの「科学実験教室」、家族連れでの「薬用植物園見学会」、思い思いの「フリーマーケット」での買い物等、大学のキャンパス広場を溢れるほどに賑わわせていただき、私達教職員と語り、学生諸君と交流していただいたことであった。

私は、大薬祭には二、三年に一度、催し物や模擬店に顔を出すのが常であったが、今回、その最初から最後の隅々までを付き合ってみて、本学学生諸君が持つエネルギーの束の間の発露と、その統率の取れた行動や生真面目さに、ある種の「感動」すら覚えた。

この「祭り」の思い出は、きっと素晴らしい「足跡」として、参加した学生諸君すべての胸に刻まれたことであろう。そして、開催に向けて各種の企画・多方面の準備にと多大なエネルギーを注ぎ、開催期間中は裏方に徹して「祭り」を支えた執行部と実行委員会の諸君にとっては、それぞれの将来に貴重な糧となるであろう。私は職責上、詳細な企画書・申請書等の書類に目を通し、保健衛生・電源の安全確保・駐車場の問題等、トラブルや事故が起こることを案じていたが故に、一層そうあってほしいと希うのである。

最後に、今回の大薬祭に際しても、温かいご理解と多大なご支援・ご協力をいただいた育友会と同窓会を始め多くの方々に、厚く御礼申し上げます。



大薬コンテスト「Miss美少年」



模擬店風景

# 学生相談室からのメッセージ

学生相談室相談員 児玉 陽子

今回は、ちょっと「こころの体操」をしてみたいと思います。さて、質問です。

1. あした晴れたら何をしたいですか？
2. あなたの気分転換の方法は何ですか？
3. もし、会えるのなら誰に会ってみたいですか？
4. もし、行けるのならどこに行ってみみたいですか？
5. もし、魔法が使えたらどんなふうに使ってみたいですか？

いかがですか？ すぐに答えられましたか？ 答えようと思っても、何も思い浮かばなかった方、絶句してしまった方、きっとあなたには「こころの遊び」が足りないのかもしれませんが！ こころをしなやかに保つには、遊びは欠かせません。もちろん、遊びだけではだめですが、まじめ・一生懸命に偏りすぎは、こころに無理をさせることになります。

悩んでいるときも同じことが言えると思います、くだらない質問に答えている暇なんかない、こっちはもっと深刻なんだ、と言われてしまいそうですが、本当はそういう時こそこころのベクトルを変えてひと休みする必要があるように思います。

日頃から、こころを上手に遊ばせることは、こころの抵抗力を高めることにつながると思います。上手に息抜きをすることができれば、また、困難なこと、厄介なことに立ち向かうエネルギーがわいてくるはず。これもひとつのストレス・マネジメントです。自身の学業・仕事・対人関係・家族関係を上手にマネジメントするために“遊び”を取り入れるのは大切なことだと思います。深刻になりすぎずに済みますから。何事にも、余裕を持つことができれば、自身の能力は十二分に発揮されるはず。そのためにも、ご自身の大切な、“こころ”を遊ばせてやるよう、日頃から心がけてみることをお勧めします。

また、あなたのまわりの人たちは、この質問にどんな風に答えるでしょうか？ その答えは、あなたと似ていますか？ それとも正反対ですか？ 似ているからといって、気が合うとは限りません。また、似ていないからといって、気が合わないとも限りませ

ん。その人の意外な一面を発見して、新しい付き合い方が見つけられるかもしれませんね。

それでは、自己紹介がてら、我々学生相談室の相談員それぞれの答えを載せておきます。相談室を訪れる際の参考(!?)にさせていただいてもかまいません!!

## 岡 鈴佳 (木曜日相談員)

1. ふとんを干す
2. 好きな音楽を聴く
3. 草薙 剛  
(最近注目している人物)
4. 江戸時代の江戸
5. 考えたり思ったりしたことが、自動的に文章になって出てくる



## 児玉 陽子 (金曜日相談員)

1. 洗濯物を干してから、おやつと本を持って公園へ行く
2. 車の運転。音楽(聴く、歌う、演奏する)
3. ヨーヨー・マ、坂本龍馬
4. クリスマス前のヨーロッパ、古代遺跡を見にヘルヘ
5. 食べても太らない身体にする



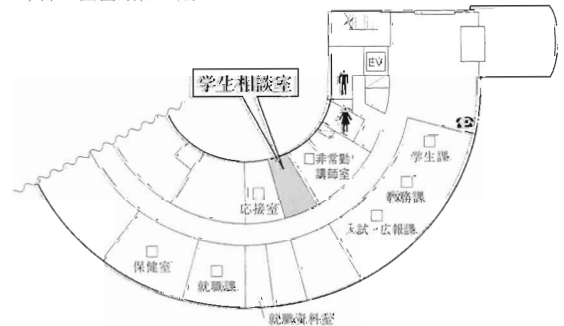
## 開室時間

毎週木曜日 12:00~15:00 岡 鈴佳

毎週金曜日 12:00~15:00 児玉 陽子

## 《場所》

本部・図書館棟1階



tel : (072) 690-1077(直通)

mail : counsel@gly.oups.ac.jp

# 平成15年度進路・就職状況（中間報告）

## 就 職 部

株価も一万円台に乗り、景気回復の足音もごくわずかですが聞こえるようになってきましたが、景気は依然長期低迷中です。この中にあっても、本学4年次生の進路・就職状況は、昨年同様堅調に推移しています。

本年度の4年次生287名（男子89名・女子198名）に対しては、3年次生時に7回の就職ガイダンスと就職部委員（教授3名・講師1名）との個人面談（全員）を実施し、各人に応じた進路・職種の選択を指導してきました。平成15年10月末日現在の卒業予定者（51期生）の進路状況は、別表に示すとおりです。全業種の内定率は、本年度74.2%（昨年度：70.6%）となっています。製薬企業のMR職は、本年度14.3%（昨年度：9.9%）と増加しましたが、内勤職は企業の求人数大幅減もあり本年度3.1%（昨年度：4%）、大学院進学者は本年度26.1%（昨年度：26.1%）となっています。現在未定の多くの学生は、病院薬剤師を第一希望としている学生です。

本年度の就職状況の特徴として、採用活動の早期化とインターネット応募の拡大があげられます。就職活動のスタートは年々早期化し、3年次生の2月中旬より製薬企業（MR）、3月下旬より全国展開の保険調剤薬局・ドラッグストアのセミナーや採用試験が始まっています。どの企業も、「明るくて、自分の意志・やる気のある人材」を求めて厳選採用を行っています。一方、急速な医薬分業の進展などにより、地域の基幹病院の求人が大幅に減り、学生の就職希望ニーズとのギャップが目立ってきています。また、現在の就職活動のほとんどは、インターネット上で実施されています。本学でも平成15年度より、インターネットでの情報収集やエントリーをタイムリーに行えるよう、就職資料室に学生専用パソコン2台とプリンター1台を設置しました。利用頻度は極めて高くなっています。多様化する就職戦線においては、スピーディーで良質な情報提供の強化は不可欠です。就職課では、情報システムの構築や運用するスタッフのスキルアップを図るなど対応を強化しています。更に本年度からは、過密スケジュールに追われ、自由に行動できる時間帯に制限のある学生に対しては、メールを活用した個々への就

職活動の支援を強化しています。特に、迅速かつ的確なスキル支援（エントリーシート・履歴書・面接）を頻回に実施し、職種決定支援の一助となるように努めています。

就職部委員会・就職課では、激変している薬学生の就職状況に対応すべく、3年次生291名（男子101名・女子190名）に対する就職指導を昨年度以上にきめ細かく企画し実施しています。特に本年度は、就職ガイダンスを16回開催し、個々の学生に応じた進路・職種選定に役立つ情報の提供を行っています。また、公務員・CRO関連の領域別ガイダンスを取り入れるなど、学生のニーズに応えるように努めています。平成15年9月26日（金）に開催した第1回就職ガイダンスでは『薬学生の進路・就職について』をテーマとし、新規作成の「就職活動の手引き」等を利用して、矢内原学長に講演をしていただきました。講演直後に実施したアンケートで「職種選定に大いに役立った」、「このようなガイダンスを頻回に実施して欲しい」ということも検証済みです。

平成15年12月18日（木）開催の就職ガイダンスでは、就職採用選考試験ではほぼ必須となってきたSPI（適性）試験を実施し、実際に体験するとともに各人の適性を事前に把握することができるよう企画しています。更に、インターンシップ体験者と不参加学生とのパネルディスカッションも企画しています。今年度のインターンシップは大手製薬会社7社（昨年度3社）に依頼し、16名の規模で夏休みを利用して実施しました。今年の参加学生は、MRおよび企業希望者の中から学内選考したこともあり、受け入れ企業からも高く評価され、かつ、参加学生からも貴重な体験を得ることができたと好評でした。

平成16年2月2日（月）開催の就職ガイダンスでは、現在第一線でご活躍されているOB・OGから、若手MR・勤務薬剤師を招き、それぞれの体験談を話していただくことにより、就職の現状（実態）を把握させることに努めています。更に、講義・実習・試験など過密スケジュールに追われている学生の就職活動を少しでも軽減するため、「学内企業セミナー」を開催します。薬業関連企業（40数社）を



12月、保険調剤薬局・ドラッグストア(50数社)を平成16年2月に各企業の参加・協力を得て実施します。平成16年2月末から3月には、昨年度同様、職種選択と就職活動の一助として、就職部委員と3年次生全員との個人面談も実施予定です。

今後は、低学年次生への就職に関するベーシックな情報の提供も行うべく企画しており、既に2年次生に対しては、平成15年10月20日(月)に実施された学科説明会において、学科別の就職状況や簡単な

職種紹介、就職活動・準備時期、インターンシップの案内等の説明を行いました。

就職部委員会・就職課では、従来通り学生一人ひとりの適性や能力に応じて、きめ細かな就職指導・相談を行い、学生が満足いく就職活動ができるように努めています。

関係各位におかれましても、本学学生の就職につきまして、ご指導・ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

### 平成15年度 4年次生(51期生)内定状況

(平成15年10月末日現在)

区 分	男子	%	女子	%	計	%	(昨年度)	
薬 局	16(18)	18.0%	45(48)	22.7%	61(66)	21.3%	(21.8%)	
病院・診療所	1(2)	1.1%	9(6)	4.5%	10(8)	3.5%	(2.6%)	
病院研修生	(2)		14(12)	7.1%	14(14)	4.9%	(4.6%)	
薬業関連企業	MR	16(14)	18.0%	25(16)	12.6%	41(30)	14.3%	(9.9%)
	内勤	(1)		9(11)	4.5%	9(12)	3.1%	(4.0%)
公務員・教職員	(2)		(1)		(3)		(1.0%)	
大学院進学	30(35)	33.7%	45(44)	22.7%	75(79)	26.1%	(26.1%)	
そ の 他	2(-)	2.2%	1(2)	0.5%	3(2)	1.0%	(0.7%)	
内 定	65(74)	73.0%	148(140)	74.7%	213(214)	74.2%	(70.6%)	
未 定	24(29)	27.0%	50(60)	25.3%	74(89)	25.8%	(29.4%)	
合 計	89(103)	100.0%	198(200)	100.0%	287(303)	100.0%	(100.0%)	

※ ( ) は、昨年10月末日現在を示す。

### 平成15年度 大学院博士前期課程(M2)(28期生)内定状況

(平成15年10月末日現在)

区 分	男子	%	女子	%	計	%	(昨年度)
薬 局	1(1)	3.8%	(3)		1(4)	2.9%	(9.5%)
病院・診療所	(1)		1(2)	12.5%	1(3)	2.9%	(7.1%)
病院研修生							(-)
薬業関連企業	MR	2(3)	7.7%		2(3)	5.9%	(7.1%)
	内勤	13(15)	50.0%	3(4)	37.5%	16(19)	47.1%
公務員・教職員	1(2)	3.8%			1(2)	2.9%	(4.8%)
大学院進学	(2)		(1)		(3)		(7.1%)
そ の 他	1(-)	3.8%			1(-)	2.9%	(-)
内 定	18(24)	69.2%	4(10)	50.0%	22(34)	64.7%	(81.0%)
未 定	8(5)	30.8%	4(3)	50.0%	12(8)	35.3%	(19.0%)
合 計	26(29)	100.0%	8(13)	100.0%	34(42)	100.0%	(100.0%)

※ ( ) は、昨年10月末日現在を示す。

# 進学説明会とオープンキャンパス

入試副委員長 掛見正郎

## ● 進学説明会

平成15年度進学説明会は、6月6日（金）大阪第一ホテル（大阪）において、高等学校ならびに予備校の先生方を対象に開催しました。また6月14日（土）には広島国際会議場（広島）、6月21日（土）には新たに香川県県民ホール（高松）において、同様の説明会を開催した後、受験生（高校1・2年生を含む）や保護者を対象とした説明会を行いました。

本年度は、昨年度参加者からのアンケート結果を踏まえ、学校週5日制の完全実施に伴う学校行事や授業時間の過密化を考慮して、広島・高松地区の開催日を土曜日に設定しました。両地区とも大阪地区同様、多数の参加者があったことから、本学や薬学への関心の高さを垣間見ることができました。

3会場とも本年度も大学紹介ビデオを上映し、「オープンキャンパスには行きたいけれども、ちょっと遠い」という方のために「バーチャル学内見学」を実施した後、薬学や入試、学生生活に関する説明ならびに活発な質疑応答を行いました。

## ● オープンキャンパス

オープンキャンパス2003を8月1日（金）および8月22日（金）に開催しました。両日とも入試内容の説明だけにとどまらず、薬学とはどのような学問なのか、また4年間の薬学教育を終えた後の進路などについて説明の後、情報科学演習室を開放しCG（コンピュータグラフィックス）の体験を兼ね化学構造式について学んだり、模擬実験（テーマ「薬剤師の仕事」を体験してみよう～粉薬の模擬調剤と軟膏の調製～）を体験したり、また電子顕微鏡施設を利用しミクロの世界を堪能したりなどの学内見学を行いました。さらに研究棟を全面開放して研究室（2～6階）の見学を実施しました。この研究室見学は、在学生の案内によるグループ見学ですが、実施後のアンケートによると、年齢が比較的近くて親しみやすく、また学生の生の声が聞けて良かったと好評でした。

なお、学内見学と併行して開設した個別相談コーナーでは、AO入試や推薦入試に関する質問が大半を占めました。このオープンキャンパスへの参加者は、年々増加しており、本年度も延べ860名（過去最多）と、本学夏恒例のビッグイベントとなりました。



オープンキャンパス風景

模擬実験



研究室の見学



薬用植物園の見学

# 平成14年度学校法人決算

事務局長 肥塚敏彰

去る平成15年5月22日(木)に開催された理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成14年度決算が審議のうえ承認されたので、資金収支計算書(総括表)および貸借対照表を掲載します。

## 資金収支計算書(総括表)

(平成14年4月1日から平成15年3月31日まで)

収入の部 (単位 千円)			
科目	予算	決算	差異
学生納付金収入	2,389,000	2,446,936	△ 57,936
手数料収入	136,200	159,474	△ 23,274
寄付金収入	10,000	17,500	△ 7,500
補助金収入	301,800	334,514	△ 32,714
資産運用収入	10,000	52,050	△ 42,050
資産売却収入	0	2,316,264	△ 2,316,264
事業収入	357,500	408,201	△ 50,701
雑収入	45,000	39,102	5,898
前受金収入	444,000	477,650	△ 33,650
その他の収入	143,200	452,551	△ 309,351
資金収入調整勘定	△ 592,600	△ 626,978	34,378
資金収入計	3,244,100	6,077,264	△ 2,833,164
前年度繰越支払資金	1,143,000	1,198,212	△ 55,212
収入の部合計	4,387,100	7,275,476	△ 2,888,376

支出の部 (単位 千円)			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,319,000	1,342,607	△ 23,607
教育研究経費支出	549,800	496,049	53,751
管理経費支出	408,500	449,109	△ 40,609
借入金等利息支出	184,900	184,837	63
借入金等返済支出	358,500	358,470	30
施設関係支出	20,000	12,423	7,577
設備関係支出	258,400	240,921	17,479
資産運用支出	18,000	1,774,124	△ 1,756,124
その他の支出	138,400	158,347	△ 19,947
予備費	10,000	0	10,000
資金支出調整勘定	△ 124,200	△ 148,907	24,707
資金支出計	3,141,300	4,867,980	△ 1,726,680
次年度繰越支払資金	1,245,800	2,407,496	△ 1,161,696
支出の部合計	4,387,100	7,275,476	△ 2,888,376

## 貸借対照表

(平成15年3月31日)

資産の部 (単位 千円)			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	18,090,538	17,820,164	270,374
土地	8,722,723	8,722,723	0
建物	5,623,528	5,877,508	△ 253,980
構築物	106,175	126,197	△ 20,022
教育研究用機器備品	788,916	717,594	71,322
その他の機器備品	66,875	74,761	△ 7,886
図書	1,019,084	973,559	45,525
車両	0	0	0
電話加入権	1,598	1,598	0
施設利用権	19,286	21,653	△ 2,367
有価証券	833,371	406,785	426,586
長期貸付金	4,000	4,000	0
退職給付引当特定資産	842,000	829,000	13,000
保証金	62,982	64,786	△ 1,804
流動資産	3,322,541	3,386,300	△ 63,759
現金預金	2,407,496	1,198,213	1,209,283
有価証券	698,592	1,999,940	△ 1,301,348
未収入金	142,479	114,011	28,468
商品	26,945	22,638	4,307
前払金	46,990	50,674	△ 3,684
仮払金	0	14	△ 14
立替金	39	810	△ 771
資産の部合計	21,413,079	21,206,464	206,615

負債の部 (単位 千円)			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	4,030,047	4,362,038	△ 331,991
長期借入金	3,188,730	3,533,160	△ 344,430
退職給付引当金	841,317	828,878	12,439
流動負債	947,435	960,487	△ 13,052
短期借入金	344,430	358,470	△ 14,040
未払金	104,631	97,801	6,830
前受金	477,650	484,500	△ 6,850
預り金	20,724	19,716	1,008
負債の部合計	4,977,482	5,322,525	△ 345,043
基本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	15,559,189	15,029,099	530,090
第4号基本金	201,000	201,000	0
基本金の部合計	15,760,189	15,230,099	530,090
消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費収入超過額	675,408	653,840	21,568
消費収支差額の部合計	675,408	653,840	21,568
負債の部、基本金の部、消費収支差額の部合計	21,413,079	21,206,464	206,615

## 総務課だより

### ◆ 人 事

再 任 (平成15年12月16日から2年)  
学 長 矢内原千鶴子

昇 任 (平成15年10月1日付)  
助教授 高岡 昌徳 (講師)

配置換え (平成15年10月1日)

助 手 芝野真喜雄 (専門薬学系薬用資源学部  
門生薬科学教室)  
助 手 原田 勇一 (総合薬学系生命薬科学部  
門 (環境分析学研究室))

非常勤講師 (平成15年9月22日付)

久保 道徳 (東洋医学概論)  
小坂 美樹 (フランス語2)  
斎藤 武 (数学2)  
田口 侑男 (数学2)  
中塚 宗次 (薬事関連法・制度)  
中村 益久 (臨床薬理学1)  
中村 恵 (ドイツ語2、ドイツ語4、洋書講読ゼミ2)  
樋口 久 (英語2)  
藤田 義孝 (洋書講読ゼミ2)  
榊矢 桂一 (人文科学特論2、ドイツ語2、洋書講読ゼミ2)  
Joseph Michael Jacobs (英語4)  
Julianne Gay Whitlam (英語4)  
Anthony FW Foong (洋書講読ゼミ2)

客員研究員

林 哲也 (平成15年7月1日付 期間1年)  
内田 武 (平成15年10月1日付 期間1年)  
若原 章男 (平成15年11月1日付 期間1年)

### ◆ 慶 弔

<訃 報>

近藤 美恵 元理事 平成15年9月12日逝去

### ◆ 海外出張

田中 一彦 教授 (臨床薬剤学教室)  
廣谷 芳彦 講師 (臨床薬剤学教室)  
<出張期間:平成15年9月6日~9月12日>  
第8回国際TDM会議 (バーゼル, スイス)

千熊 正彦 教授 (生体分析化学教室)

<出張期間:平成15年10月7日~10月14日>

第9回がん化学療法における白金配位化合物に関する国際シンポジウム (ニューヨーク, アメリカ)

### ◆ 9月卒業式

平成15年9月26日(金)午前10時より大会議室において、平成15年9月卒業式(薬学科5名、製薬学科7名)が関係者参列のもとに挙行された。



### ◆ 平成15年度 研究助成

浦田 秀仁 講師 (機能分子創製化学研究室)  
(財)住友財団「基礎科学研究助成」(100万円)  
「生体分子のホモキラリティの起源に関する化学的アプローチ」

### ◆ 各部・委員会・委員一覧 (追補)

施設委員会 (平成15年7月1日改選) ◎は委員長

◎矢内原千鶴子(学 長)	栗原 拓史(教 授)
池田 潔(教 授)	玄番 宗一(教 授)
土井 勝(教 授)	石田 寿昌(教 授)
千熊 正彦(教 授)	掛見 正郎(教 授)
田中 一彦(教 授)	木村捷二郎(教 授)
肥塚 敏彰(事務局長)	

大阪薬科大学紀要編集委員会 (平成15年7月17日設置)

◎は委員長

◎加藤 義春(教 授)	稲森 善彦(教 授)
田中 一彦(教 授)	濱中久美子(助教授)
春沢 信哉(助教授)	松島 哲久(助教授)
土井 光暢(助教授)	

カリキュラム委員会

◎は委員長

◎石田 寿昌(教 授)	池田 潔(教 授)
掛見 正郎(教 授)	田中 一彦(教 授)
馬場きみ江(教 授)	木村捷二郎(教 授)
松村 靖夫(教 授)	藤田 芳一(助教授)
松島 哲久(助教授)	浦田 秀仁(講 師)

## 経理課だより

◆ 大阪薬科大学  
 ハイテク・リサーチ・センター  
 平成15年度公開シンポジウム

「DNA・RNA結合分子を標的とした疾病の発症機構の  
 解明とその診断・予防および治療薬の開発への応用」

日 時：平成15年12月6日（土）13：00～  
 場 所：大阪薬科大学・講義室2A

〈プログラム〉

13：00～13：45  
 循環器疾患におけるエンドセリンの役割  
 松村 靖夫（大阪薬科大学・教授）

13：45～14：30  
 高血圧および腎障害進行におけるレニン・アン  
 ジオテンシン・アルドステロン系と酸化ストレ  
 スの役割  
 西山 成（香川大学医学部・助手）

14：30～15：30 ポスターセッション

15：30～16：15  
 細菌のキチン分解系に關与する遺伝子の発現調  
 節機構  
 辻坊 裕（大阪薬科大学・助教授）

16：15～17：00  
 薬学領域における核内受容体研究  
 西川 淳一（大阪大学大学院・助教授）

17：15～ 懇親会

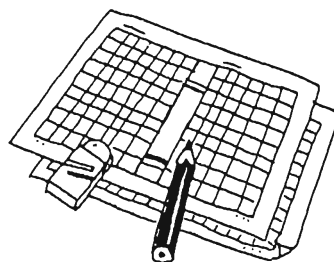
主 催 大阪薬科大学  
 協 賛 社団法人 日本薬学会  
 社団法人 日本化学会  
 社団法人 日本生化学会

◆ 平成16年度の学費について(学部)  
 平成16年度の学費が次のとおり決定しましたので  
 お知らせします（本年度と同額）。

(単位 円)

学費内訳	金 額
授 業 料 (年額)	1,200,000
施設・設備費 (年額)	600,000
計	1,800,000

\* 2年次以降、実習費を徴収することがあります。



## 教務課だより

平成16年度大学院薬学研究科  
博士前期(修士)課程入学試験結果

### (推薦入試)

募集人員 6名(臨床薬学コースを含む)  
出願期間 平成15年6月9日(月)～6月20日(金)  
面接試験 6月30日(月)  
合格者発表 7月7日(月)  
志願者 11名〔男子3名、女子8名〕  
うち、臨床薬学コース 1名〔男子0名、  
女子1名〕  
受験者 11名〔男子3名、女子8名〕  
うち、臨床薬学コース 1名〔男子0名、  
女子1名〕  
合格者 6名〔男子1名、女子5名〕  
うち、臨床薬学コース 1名〔男子0名、  
女子1名〕

### (一般入試1次)

募集人員 24名(臨床薬学コースを含む)  
出願期間 平成15年7月22日(火)～8月1日(金)  
学力試験 8月20日(水)〔外国語科目(英語)、専  
門科目〕  
(臨床薬学コース希望者および他大学出身  
者のみ面接試験)  
合格者発表 8月29日(金)  
志願者 58名〔男子28名、女子30名〕  
うち、臨床薬学コース 5名〔男子2名、  
女子3名〕  
受験者 57名〔男子27名、女子30名〕  
うち、臨床薬学コース 5名〔男子2名、  
女子3名〕  
合格者 43名〔男子18名、女子25名〕  
うち、臨床薬学コース 1名〔男子0名、  
女子1名〕

### (一般入試2次)

募集人員 若干名(臨床薬学コースを含む)  
出願期間 平成15年10月6日(月)～10月10日(金)  
学力試験 10月17日(金)〔外国語科目(英語)、専  
門科目〕  
(臨床薬学コース希望者および他大学出身  
者のみ面接試験)

合格者発表 10月24日(金)  
志願者 14名〔男子8名、女子6名〕  
うち、臨床薬学コース 4名〔男子3名、  
女子1名〕  
受験者 13名〔男子7名、女子6名〕  
うち、臨床薬学コース 4名〔男子3名、  
女子1名〕  
合格者 12名〔男子6名、女子6名〕  
うち、臨床薬学コース 3名〔男子2名、  
女子1名〕

### 学位授与

#### [学士]

学士(薬学)薬学科 5名 製薬学科 7名  
男子 9名 女子 3名 合計 12名  
(平成15年9月30日付)

## 大学院博士前期(修士)課程 入学定員の変更について

平成16年度から大学院博士前期(修士)課程  
入学定員を40名(現行30名)に変更する予定です。



学生課だより

奨学生状況

平成15年10月1日現在

1. 日本育英会

区 分		1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	合 計
第 一 種		35	24	22	24	19	124
月 額 (円)	自 宅	53,000	51,000	51,000	50,000	85,000～	
	自宅外	63,000	61,000	61,000	60,000	121,000	
きぼう21プラン		60	68	51	64	10	253
月 額 (円) (薬学課程増額月額)		3万・5万・8万・10万円から選択 (10万円を選択した場合は2万円の増額可)				5万・8万・ 10万・13万 円から選択	
合 計		95	92	73	88	29	377

2. その他の育英・奨学会

区 分	月額 (円)	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	合 計	貸与・給付
あしなが育英会	40,000	0	0	1	0	—	1	貸与
(財)伊予三島奨学会	25,000	0	0	1	0	—	1	貸与
(財)大阪府育英会	30,000	—	0	1	0	—	1	貸与
(財)岡山県育英会	50,000	1	0	1	0	—	2	貸与
(財)山口県奨学会	51,000	1	0	0	0	—	1	貸与
岐阜県教育委員会	32,000	0	0	1	0	—	1	貸与
東大阪市教育委員会	17,000	0	0	1	0	—	1	貸与
大阪薬科大学育友会奨学会	40,000	4	0	0	2	0	6	貸与
(財)小野奨学会	学部30,000 大学院60,000	1	1	3	1	4	10	給付
(財)河内奨学財団	40,000	0	0	1	0	—	1	給付
(財)佐藤奨学会	19,500	1	0	1	0	—	2	給付
(財)大東育英会	25,000	0	0	0	1	—	1	給付
(財)森下仁丹奨学会	30,000	—	—	—	—	1	1	給付
合 計		8	1	11	4	5	29	

○学生証の更新について

青色の学生証（平成14年入学者、平成12年以前の入学者対象）の有効期限は、平成16年3月31日までとなっています。このため、新年度に向けて学生証の更新手続きが必要になります。更新時期や手続き等については、学生部の掲示板で随時案内しますので、注意しておいてください。

○自動車・単車通学の禁止について

本学では、通学途上の事故防止、騒音や路上駐車による近隣居住者への迷惑防止、構内での交通安全

を確保し学園内環境を保全するため、自動車・単車（原付を含む）の入構については、原則として禁止しています。

しかしながら、近隣路上に迷惑駐車をする学生が、後を絶ちません。利便性から「これぐらいは良いのでは」という安易な駐車が、大学周辺の居住者にとっては大きな迷惑となっています。学生自身の安全のためばかりでなく、居住者への迷惑防止のためにも、学内交通ルールを守り、バス等の公共交通機関を利用し通学するようにしてください。

「関西薬連大会・全国薬連大会」結果（平成15年度）

◆ 関西薬連大会

部 名	団 体	個 人
剣 道 部	男子 5位 女子 2位 Aチーム 予選敗退B・Cチーム	個人/ベスト8・本田③
硬 式 庭 球 部	男子 5位 女子 1位	シングルス/3位・金村②
硬 式 野 球 部	3位	
サ ッ カ ー 部	4位	
柔 道 部	男子 1位	
ソ フ ト テ ニ ス 部	男子 4位 女子 5位	
卓 球 部	男子 予選敗退 女子 ー	
バスケットボール部	男子 3位 女子 3位	
バドミントン部	男子 9位 女子 1位	ダブルス/3位・清水③・武田③ シングルス/ベスト8・清水③・武田③
バレーボール部	男子 5位 女子 5位	
陸 上 競 技 部	男子 トラック フィールド 女子 トラック フィールド	100m×4リレー/4位・野木③・徳本②・石塚③・重田③ 400m×4リレー/4位・野木③・徳本②・石塚③・重田③ 走り高跳び/3位・重田③ 4位・中村② やり投げ/3位・今川③ 円盤投げ/2位・小川① 3位・吉田③ 100m×4リレー/4位・松村②・石田①・楠本①・奥村① 800m/2位・滝井① やり投げ/1位・滝井① 円盤投げ/3位・金井①

◆ 全国薬連大会

部 名	団 体	個 人
剣 道 部	男子 予選敗退 女子 予選敗退	
ソ フ ト テ ニ ス 部	男子 予選敗退 女子 予選敗退	
卓 球 部	男子 予選敗退 女子 ー	
バスケットボール部	男子 予選敗退 女子 予選敗退	

注) ○内は学年

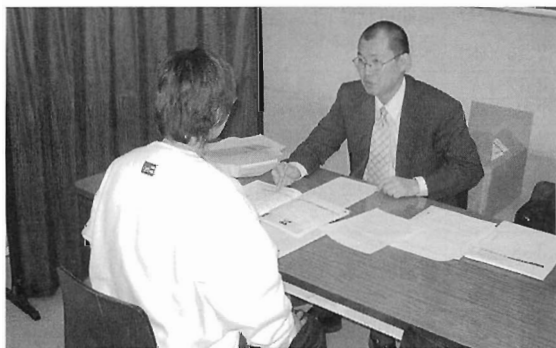


## 入試・広報課だより

今年度は、5月17日（土）名古屋（愛知県中小企業センター）、6月14日（土）大阪（OMMビル）、6月18日（水）東京（アルカディア市ヶ谷）、7月6日（日）福岡（福岡国際ホール）において、受験生（高校1・2年生を含む）や保護者を対象とした業者主催の進学相談会に参加し、平成16年度入試概要を中心に説明を行いました。

本学を卒業することで薬剤師国家試験受験資格が得られるということが、受験生にとっては他の学部にはない大きな魅力であり、また、医療・薬学系志向や資格取得志向が強いと言われる大学進学希望者の動向を反映し、各会場とも参加者からは、本学や薬学についての活発な質問があり、大盛況でした。

さらに、高校からの依頼により、10月18日（土）、10月29日（水）、11月13日（木）に高校生が「薬学」に興味や関心を持つような内容で、本学教員による模擬講義を行いました。講義終了後、受講した生徒からは、「薬学に興味を持つことができた」、「くすりが身体に効く仕組みが分かった」などの感想が寄せられ、大変好評でした。また、高校進路指導部の先生からは、「生徒たちは、薬学に関する理解を深め、知的関心・薬学探究への意欲を高揚させて、自らがより自己の将来の姿を鮮明に描き、本校と大阪薬科大学との連携を図る有意義な機会であった」との報告を受けました。



進学相談会

## 図書課だより

### ◆ 寄贈図書について

このたび、下記の図書の寄贈がありました。お志に感謝し、大切に利用してください。

川島康生 理事長

「Journal of the American College of Cardiology」

14年分 ほか

濱中久美子 助教授

「医学生のためのドイツ語入門」 ほか

春沢信哉 助教授

「ソロモンの新有機化学 下」 ほか

土井光暢 助教授

「医薬品の構造式：その描き方と読み方」 ほか

故山本栄子助手のご遺族から下記蔵書の寄贈がありました。

「薬剤師のための服薬指導ガイド」 ほか125冊

故中室嘉祐教授のご遺族から、図書購入費としてご芳志を頂戴しました。

以上のほかにも多数ご寄贈がありました。紙面を借りて謝意を表します。

### ◆ 購入希望図書について

購入希望の図書があれば、館内に備え付けのアンケートボックスで受け付けています。書名・著者名などを記入の上、投函してください。また、e-mailでも受付可能です。メールアドレスはlib3@gly.oups.ac.jp ですので多数ご希望をお寄せください。なお、e-mailでお寄せ頂く場合は、必ず学籍番号、お名前をご記入ください。また、添付ファイルを用いての送信はご遠慮ください。

## 平成15年度後期行事予定

〈学部〉

平成15年

8.28 (木)	前期再試験受験者発表 (1～3年次生)
9.1 (月)	前期再試験 (4年次生・1～4年次全科目) 9月6日(土)を含む
9.12 (金)	
9.3 (水)	前期再試験 (1～3年次生)
9.12 (金)	
9.6 (土)	平成16年度編入学試験 (H方式)
9.10 (水)	平成16年度編入学試験 (H方式) 合格者発表
9.19 (金)	第2回薬学総合演習総合試験 (4年次生)
9.20 (土)	
9.22 (月)	後期授業開始 (1～3年次生)
9.25 (木)	特別再試験受験者発表 (4年次生)
9.26 (金)	平成16年度AO入学試験 (A方式) 第一次選考結果発表 就職ガイダンス (3年次生)
9.30 (火)	後期選択科目 (1～3年次生) 履修届提出締切 (教務課) 午後3時
10.11 (土)	平成16年度AO入学試験 (A方式) 第二次選考
10.17 (金)	平成16年度 (第二次) 大学院修士課程一般入学試験 平成16年度AO入学試験 (A方式) 第二次選考結果発表
10.20 (月)	特別再試験 (4年次生) この期間の月曜日
12.15 (月)	
10.24 (金)	平成16年度 (第二次) 大学院修士課程一般入学試験合格者発表
10.25 (土)	平成16年度AO入学試験 (A方式) 第三次選考
10.30 (木)	第38回大薬祭準備 (午後臨時休講)
10.31 (金)	平成16年度AO入学試験 (A方式) 合格者発表
10.31 (金)	第38回大薬祭等 (臨時休講)
11.3 (月)	
11.8 (土)	平成16年度推薦入学試験 (S方式)・帰国生徒特別選抜入学試験 (K方式)
11.15 (土)	第3回薬学総合演習総合試験 (4年次生)
11.17 (月)	
11.22 (土)	平成16年度推薦入学試験 (S方式)・帰国生徒特別選抜入学試験 (K方式) 合格者発表
12.10 (水)	実験動物慰霊祭
12.13 (土)	平成15年度長期病院実務実習報告会 (4年次生長期病院実務実習コース)
12.18 (木)	就職ガイダンス (3年次生)
12.19 (金)	第4回薬学総合演習総合試験 (4年次生)
12.20 (土)	
12.22 (月)	後期授業年内終了 (1～3年次生)

平成16年

1.7 (水)	後期授業再開 (1～3年次生)
1.8 (木)	月曜講義の振替開講日 (1～3年次生)
1.14 (水)	月曜講義の振替開講日 (1～3年次生)
1.15 (木)	後期授業終了 (1～3年次生)
1.16 (金)	後期授業予備日 (午後臨時休講) 平成16年度大学入試センター試験実施準備(午後)
1.17 (土)	平成16年度大学入試センター試験 [センター試験利用入学試験 (C方式)]
1.18 (日)	
1.19 (月)	後期定期試験 (1～3年次生)
1.30 (金)	
2.1 (日)	平成16年度一般入学試験Ⅰ (F方式) [本学・大阪国際会議場・中国新聞ホール (広島)・高松商工会議所会館 (香川)]
2.上旬	就職個人面談 (3年次生)
3.中旬	
2.2 (月)	後期定期試験 (1～3年次生) 欠席届提出締切 (教務課) 午後1時 就職ガイダンス (3年次生)
2.4 (水)	薬学総合演習正規試験1 (4年次生)
2.5 (木)	
2.7 (土)	平成16年度センター試験利用入学試験 (C方式)・一般入学試験Ⅰ (F方式) 合格者発表
2.9 (月)	平成16年度一般入学試験Ⅱ (G方式) (本学・大阪予備校)
2.10 (火)	後期再試験受験者発表 (1～3年次生)
2.16 (月)	薬学総合演習正規試験2 (4年次生)
2.17 (火)	
2.16 (月)	後期再試験 (3年次生) 2月21日(土)を含む (2月22日(日)試験予備日)
2.21 (土)	
2.16 (月)	後期再試験 (1・2年次生) 2月21日(土)を含む
2.26 (木)	
2.17 (火)	平成16年度一般入学試験Ⅱ (G方式) 合格者発表
2.24 (火)	卒業生発表 (教務課)
2.27 (金)	特別再試験受験者発表 (3年次生)
2.27 (金)	薬剤師国家試験全国統一模擬試験 (4年次生)
2.28 (土)	
3.8 (月)	特別再試験 (3年次生)
3.11 (木)	
3.13 (土)	第51期学部卒業式
3.18 (木)	進級者発表・進級者未修得科目発表 (教務課)
3.27 (土)	第89回薬剤師国家試験 (厚生労働省)
3.28 (日)	

〈大学院〉

平成15年

9.22 (月)	後期特論開始
9.29 (月)	後期特論選択科目履修届提出締切 午後3時 (教務課)
10.6 (月) ↓ 10.10 (金)	平成16年度(第二次)修士課程一般入学試験出願 受付
10.17 (金)	平成16年度(第二次)修士課程一般入学試験
10.24 (金)	平成16年度(第二次)修士課程一般入学試験合格 者発表
12.15 (月)	後期特論終了

平成16年

1.21 (水) ↓ 1.28 (水)	平成16年度博士後期課程入学試験出願受付
2.12 (木)	修士学位論文提出期限 午後1時(教務課)
2.13 (金)	平成16年度博士後期課程入学試験
2.20 (金)	平成16年度博士後期課程入学試験合格者発表
2.21 (土)	修士学位論文発表会
3.2 (火)	平成15年度修士課程修了者発表
3.13 (土)	第28期大学院学位記授与式



# 薬 需

発 行

大阪薬科大学広報委員会

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4-20-1

TEL (072) 690-1019(入試・広報課)

FAX (072) 690-1018(            ”            )

URL <http://www.oups.ac.jp/>